

編者は原田清弁護士。執筆者は中川テシオ医師(精神科)、中川柳田きょうこ教授(心理学者)、山中イジロ口農業技術師、渡部和夫元州高等裁判所判事、上田雅三連邦最高裁判所判事、宮正人弁護士(USP法学部教授)、吉岡黎明ブラジル人文科学研究所、山田



レナット医師(泌尿器科)、西田ロツケ技師、大原毅弁護士。執筆の対象は、世界における日本移民の歴史的發展、メキシコ、ペルー、アルゼンチンなどの中南米諸国への日本移民、ブラジルの日本移民、初期の植民地造成、世界大戦のブレッシヤ、道連盟メンバーの活動など。日系人の発展と同化の過程、各分野における日系人の活躍、政治、教育、法律、商業、農業、医学、芸術、スポーツ、建築など、ブラ

ラジルの開発と発展におけるニッケイコミュニティの果たす役割、出稼ぎ現象について、県人会が果たす役割について、日伯間における法律分野(伯日比較法学会)、ブラジルと日本における外交分野の両国の外交官、ニッケイコミュニティの将来など五章からなっている。また、植木茂彬、平野誠二、青木千栄子、和田忠義、松尾治、野村アウレリオ、金城セルソさんら十九人にインタビューして貴重な証言を得ている。日本人移民がなぜ、どの

ようにしてコロノとして来伯し、MJKのドラマ「ハルとナツ」に見られるように、必ずしも友好的ばかりとは言えなかった環境のなかで、困難に直面し、更には第二次世界大戦において国交断絶後、敵性国民としての扱いに耐え、それらをみごとに克服したことを称えるものであるとしている。

また戦後の日系社会の活躍も活々、さらにブラジルの行政、司法、立法三権や軍警関係などでの日系人の活躍も浮き彫りにして、次代に遺産として残すべき記録の集大成とすべく記録の集大成となつていく。

同プログラムは、国内の外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の促進を通じて、日本と諸外国との相互理解の増進と日本の地域の国際化を目的とするもの。交流員は各地の地方公共団体等に配置される。

ブラジルからは毎年五人程度が参加。主な参加条件は、ブラジル国籍所有者、大学卒、日本語能力を有すること、二〇〇八年四月一日段階で四十歳未満であること等。説明会では、JETプログラム説明のほか、元

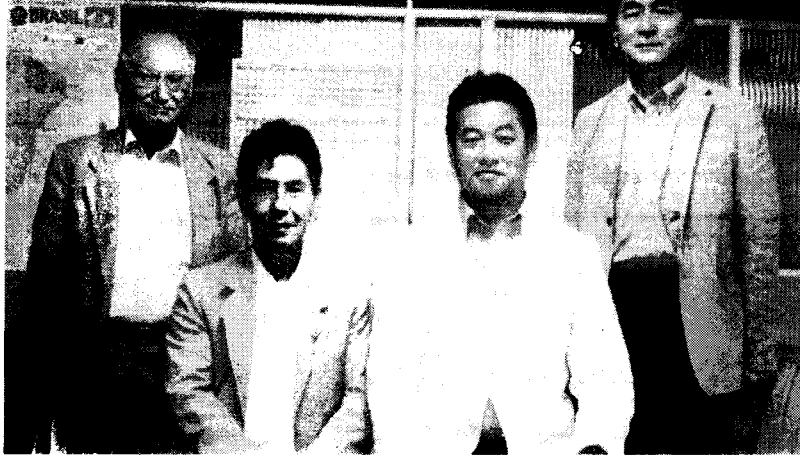
ようにしてコロノとして来伯し、MJKのドラマ「ハルとナツ」に見られるように、必ずしも友好的ばかりとは言えなかった環境のなかで、困難に直面し、更には第二次世界大戦において国交断絶後、敵性国民としての扱いに耐え、それらをみごとに克服したことを称えるものであるとしている。

本で紹介に来社した編らで、次代に残す我々の大きな事業だ。目的はブラジル社会への日系人の

報を提供している。ぜひ多くのの人に読んでもらいたい」と語っていた。

の紹介に来社した編らで、次代に残す我々の大きな事業だ。目的はブラジル社会への日系人の

報を提供している。ぜひ多くのの人に読んでもらいたい」と語っていた。



阿部理事、根元会長、諸井県議、尾崎理事(左から)

日伯友好議員連盟が発足

埼玉 諸井事務局長来聖、交流へ意欲

埼玉県議会で十月、県とブラジルとの相互理解と諸分野での交流、発展を目的に、日伯友好議員連盟が発足し、挨拶と視察を兼ねて事務局長に就任した諸井真英(まさひで)県議が来伯した。

諸井事務局長は、「これまで埼玉県はブラジルとの交流に積極的ではなかったが、ブラジル日本移民百年周年を機に交流を活性化させていく意向」と発足の理由を話した。

来年は埼玉県人会(根元信元会長)の創立五十周年にもあたり、八月頃に予定されている記念式典にも「ぜひ議員団で訪問したい」としている。

諸井事務局長は来伯中、

周りに、各地で関係者らへの挨拶とエタノール工場や都市計画関連の視察を行っている。

同議員連盟は、自民、民主などの政党所属無所属を問わず、六十五人の議員で構成。定数九十四人の県議のうち、三分の二が参加するものとなっている。

「ぜひ議員団で訪問したい」としている。

諸井事務局長は来伯中、

周りに、各地で関係者らへの挨拶とエタノール工場や都市計画関連の視察を行っている。

同伴来社した根元会長らは、「県からの補助金も減少傾向にあるところに(議員連盟発足は)朗報」と顔をほころばせ、「予算の関係で今年度から打ち切られた県費研修制度の復活を」と切に願っていた。

国際交流に意欲ある青年を

08年度JETプログラム説明会

二〇〇八年度JETプログラム(語学指導等を伴う)の説明会が、十月七日午後七時から、在サンパウロ日本国総領事館(聖市パラソウ区パウリスタ大通り八五四番)三階多目的ホールで行われる。

同プログラムは、国内の外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の促進を通じて、日本と諸外国との相互理解の増進と日本の地域の国際化を目的とするもの。交流員は各地の地方公共団体等に配置される。

資金捻出困難、規模縮小か

援協、福祉センター建設に暗雲

二十一日、援協(森口イナシオ会長)の「十一月定例役員会」が援協会議室で行われ、冒頭に挨拶した森口会長が「(仮)援協福祉センター」建設予算についてふれ、「とても手におえるような金額ではない」として具体的な建設予算案の発表を避けた。

さらに続けて、「別々な意見をまとめる必要がある。どうにか一致を守らなければならぬ」と、現在金額を調整している段階であることが明らかになった。

援協では、当初センター建設費用として約九百万レアルとしていたが、予想額を大幅に越える可能性を示唆。現在、施工会社や必要機材を搬入する企業と調整段階にあるという。

昨年九月の役員会で地上五階、地下三階立ての概観が発表されたが、規